

ほとんどの事故は、基本的な安全規則を守らない運転、点検、整備で発生しています。車両の運転や操作を行う前には、必ず車両に搭載されている取扱説明書を熟読してから、安全にご使用下さい。

### 運行前の点検について

安全で快適な運転のためには、車の状態を良く知り、最良の状態にしておく必要があります。必ず運行前点検（日常点検）を行って下さい。

#### ブレーキについて

- ・ブレーキペダルを踏み込んだ時、遊び量が適正で異常な引っ掛かりが無い点検します
- ・エアブレーキ車は、ブレーキペダルを踏み込んでから足を離した時に、ブレーキペダルの排気口から「ブシュー」という排気音がして、ペダルが完全に戻るか確認して下さい。また、いつまでも排気をしている事がないか確認して下さい。
- ・空気圧メーターで充填状態を確認して下さい（エアブレーキ車）
- ・ブレーキ液タンク内の液面がMAX（又はOIL LEVEL）とMINの間にあるか確認します
- ・乾燥路をゆっくりと走行してブレーキを踏み、効きが充分で片効きしないか確認します

#### タイヤについて

- ・タイヤに亀裂や損傷がないか確認して下さい
- ・空気圧が現象していないか確認して下さい
- ・スリップサインが出ていないか確認して下さい
- ・ダブルタイヤの間に石などが噛みこんでいないか確認して下さい

#### 冷却水について

- ・ラジエーターサブタンク内の冷却液面がMAXとMINの間にあるか確認して下さい。
- ・ラジエーターやホース周辺から冷却水が漏れ

ていないか確認して下さい。

- ・冷却水の補充は必ずサブタンクから行って下さい。

#### エンジンオイルについて

- ・オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているエンジンオイルを拭き取った後に再度差し込み計測します。エンジンオイルがMAXとMINの間にあれば良好です
- ・エンジンオイルの計量は、必ず平坦な場所で行って下さい。

#### 灯火装置について

- ・各スイッチをONにして各ランプが正常に作動し、点灯または点滅するか確認して下さい
- ・照射方向や明るさに異常がないか確認して下さい
- ・各ランプのレンズに汚れや損傷がないか、また確実に取り付けられているか確認して下さい

#### 視界について

- ・ワイパー・ウオッシャーを作動させ、きちんと作動し、拭き上げられるか確認して下さい
- ・ウオッシャー液は入っているか確認して下さい
- ・フロントガラスにヒビや飛び石跡がないか確認して下さい

#### エンジンの掛かり具合について

- ・チェンジレバーがマニュアル車の場合は二

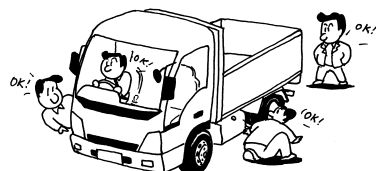
ュートラルになっているか、オートマチック車の場合はPかNになっているか確認をしてエンジンを始動します。このときにエンジンが速やかに掛かるか、異音はしないか確認して下さい

・暖機運転終了時にアイドル回転数が標準アイドル回転数の範囲に入っているか確認して下さい

・徐々にペダルを踏み込んだ際に、アクセルペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか確認して下さい

#### その他

- ・PTO装着車はPTOが切断されているか確認を行って下さい
- ・シートベルトに損傷がないか確認を行って下さい
- ・ミラーでの視野を確認し、調整を行って下さい
- ・シートポジションは適正か確認し、調整を行って下さい



### 積荷について

- ・過積載をしないで下さい。規定容量を超えての走行は、重心が高くなり大変危険です。また制動距離が大幅に延びて事故の危険性が高まります
- ・積荷は中心に載せてください。片寄った積荷のまま走行をすると、カーブなどで車の傾きが大きくなり転倒する危険があります
- ・タンク車は重心が移動します。液体はその特性上、カーブや加減速を行うと重心移動によりハンドルがとられたり車の傾きが予想以上に大

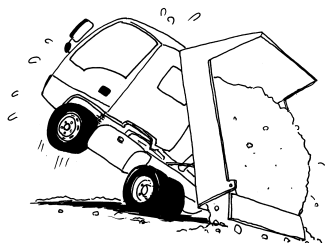
きくなります。ご注意ください

- ・土砂以外の積載物は荷台に固定して下さい。固定していない積載物は、走行時の急発進、急停車、急旋回などによりゲート等に衝撃を与え、ゲートの破損や開放による落下、また風圧による飛散の危険性があります。また、積荷の落下により事故が発生した場合は、落とし主が責任を問われます。荷締め機、ロープなどでしっかりと固定して下さい

### 荷台について

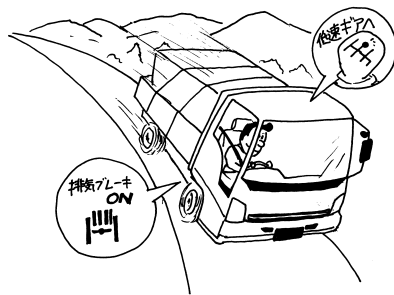
- ・ダンプの荷台やクレーン、高所作業車のブームは必ず上げてから走行を行って下さい。架線や架橋への衝突の恐れがあります
- ・ダンプ装置は正規の目的以外では使用しないで下さい。ダンプ装置を本来の目的以外に使用する事は労働安全規則第151条の14で禁止されています
- ・積荷が片寄った状態でダンプ荷台を上げないで下さい。片寄ったままダンプすると転倒事故の原因となります。
- ・ダンプ荷台の上げ下げは平らで堅固な場所で行って下さい。傾斜地や不整地、軟弱地でダンプ操作を行うと転倒事故の原因となります。
- ・テールゲートをロックしたままダンプする事は避けて下さい。ダンプ機構に大きな負荷がかかり損傷する危険性があり、また転倒する危険性があります。また、ロックを解除する際には、積荷に押されてゲートが開く事がありますので慎重に行って下さい
- ・ゲートを開く前にロックの状態やフックガイドを確認して下さい。フックガイドが機能しているかを確認した上で、足元に注意しながら途中で手を離さないようにゆっくりと開いて下さい。
- ・積載したまま荷台を急降下させたり急停止する事は絶対にしないで下さい。大きな荷重衝撃が発生し、各機構の損傷やシャーシフレームや荷台が曲がる原因となります。
- ・荷台の後方から建設機械などを積み込むと、積み込もうとする建設機械の重量が積載量以下であっても車体が浮き上がったり、ダンプ荷台

が持ち上がったる危険があります。荷台を固定する装置を用いてください。



## 走行中について

- ・急発進や急停止はやめましょう。危険ばかりでなく、クラッチディスクやブレーキライニングの早期磨耗につながります。
- ・走行中は各ウォーニングランプに注意して下さい。もし点灯したりブザーが鳴った場合は速やかに安全な場所へ停車し、取扱説明書に従ってください。
- ・走行中はエンジンキーをON位置以外にはしないで下さい。OFFにしますと、運転に必要な各機構が作動しなくなり大変危険です
- ・エンジンを停止したままの惰性運転は、ブレーキの効きが大幅に低下し、パワーステアリングが作動しなくなるので大変危険ですので、絶対に行わないで下さい
- ・カーブを曲がる時は予め減速して下さい。ブレーキを踏みながらハンドルを切ると、車輪の回転を止めることとなるのでタイヤの磨耗が早まるばかりか車体の安定が悪くなり危険です。
- ・交差点などでの右左折時には、内輪差に注意して下さい。後輪のタイヤは前輪の通った跡よりも内側を通る為、歩行者や自転車を巻き込まないように十分に注意してください
- ・降坂時には、その坂道を登るときと同じギアを使い、さらに排気ブレーキや補助ブレーキ（リターダ等）を併用して降りるのが安全な運転方法です。それでも速度が出すぎる場合は、フットブレーキを使用し、安全な速度で走行することを心がけて下さい
- ・\*排気ブレーキを凍結路や濡れたスリッパしやすい路面で使用すると

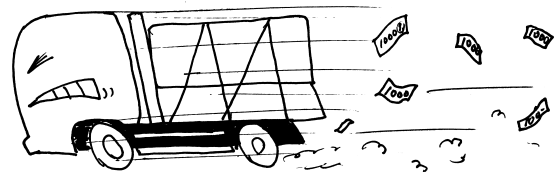
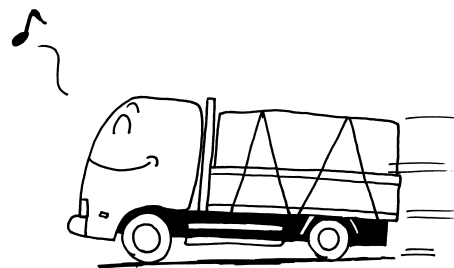
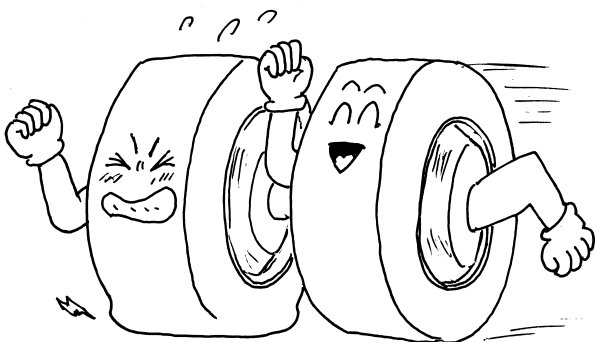


- きは、走行不安定になる危険性があるので十分に注意して下さい
- ・2段とびのシフトダウンはエンジンをオーバーランしてしまう危険性が高いので絶対に行わないで下さい
- ・ブレーキを掛けるときは、必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキを踏み続けて走行すると、ブレーキが熱を持ち制動できなくなる危険性があります。
- ・DPD装着車は、インジケータランプが点灯した場合は速やかに停車し、取扱説明書に沿った措置を行って下さい。そのまま走行を行うとDPDが焼損する事があります。

## ちょっとひといき 経済走行のススメ

燃費を良くする条件にはエンジンやトランスミッションの仕様、エアダムスカートなどの空気抵抗低減アイテムの有無によって左右されます。しかしながら、ドライビングテクニックや車両のメンテナンスによっても大きく左右されます。以下の点を参考に省エネ運転を実践して下さい

- ・長すぎるアイドルは燃料の無駄遣いです。  
トラックは乗用車と比較して大きな排気量のエンジンを搭載しています。よって同じアイドル時間でも燃料の消費量は多くなります。5~10分も行えば完了であると思ってください。
- ・経済走行を心がけましょう  
一般道路では時速50km、高速道路では時速80kmが経済速度です。トップギアを用いてアクセルをゆるめに定速走行に努めましょう
- ・急発進・急加速は燃費悪化のもと  
アクセル全開での急発進や急加速は、加速抵抗が大きくなり燃料消費が大きくなります。  
また、加速時に大きくアクセルを踏み込んでも、燃料消費の割には速度が乗らない事が多いので、アクセルは緩やかに必要な分だけ踏み込むようにしましょう。
- ・惰性走行で燃費改善を  
エンジンブレーキや排気ブレーキが作動中は燃料を消費しません。下り坂や赤信号の手前ではエンジンブレーキを使って減速をして惰性運転に心がけましょう。また、燃料を一番多く消費する時は発進時であるため、赤信号の手前では惰性運転を行い、停車しないように運転するのも手段の一つです。



- ・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めに  
エンジンの回転数を上げると燃料の消費量が増大するので、なるべく高速段のギアを用いた運転を行いましょう
- ・波状運転はやめましょう  
加速と減速を繰り返す波状運転は、加速時に燃料を多く使用します。なるべく速度とアクセルの踏み込みは一定にしておきましょう
- ・荷姿にも注意して下さい  
荷姿が、高荷だったり幌がばたいたりするのは、空気抵抗が高くなり燃費が悪化します
- ・タイヤの空気圧は適正に  
タイヤの空気圧が低いと、転がり抵抗が大きくなる為、燃費が悪化します
- ・エアエレメントの目詰まりは大丈夫？  
エアフィルターが目詰まりしたまま走行をすると、吸入空気の抵抗が増えてしまい、出力の低下からアクセルを踏み回数が増えて燃費が悪化します

運転前には取扱説明書を熟読され、安全運転に心がけて下さい